

甘利大臣とロブ豪州貿易・投資大臣の昼食会終了後の記者会見概要

日時：3月26日（水）13：30～13：38

場所：内閣府本府5階 エレベーターホール前

【冒頭発言】

先程まで約1時間、昼食をとりながら豪州のアンドリュー・ロブ貿易・投資大臣と会談を行った。TPP並びに日豪EPAについて協議を行った。日豪EPAに関しては、首脳会談までに交渉を加速させようということで一致した。交渉の中身についても詳細に報告を受けた。今後、日豪EPAに関して関係三閣僚（外務大臣、農水大臣、経産大臣）と協議を重ね、交渉を加速したいと思っている。

TPPに関しては、日豪が連携して交渉を早期に妥結に導くことで一致した。また、交渉の持ち方についても最初から大臣会合をセットして、大臣会合ありきではなく事務的に交渉官が案件を詰めていって、いよいよ最後の一押しという段階になって大臣会合を設定するというやり方については全面賛成という話もあった。TPPに関して物品MA以外のルールで日豪間の数項目の懸案項目について私から対応に関する提案を行ったが、それについては基本的には了解したということだった。2つの交渉とも、良い前進に向けての成果が得られたと思っている。

【質疑応答】

記者：午前中、ロブ大臣は林農水大臣と予定よりだいぶ長い間会談をしていたようだが、焦点となっていた牛肉の関税引き下げについては落としどころが決まったように聞いているか。

甘利大臣：まだそこにはたどり着いていない。ロブ大臣は、林大臣は人間的にはとてもいい人だと言っていた。ただ、交渉結果については着地点には届いていないことだった。

記者：来月の首脳会談までにはお互いまとめようということか。

甘利大臣：お互い、交渉を加速させようということで合意した。もちろん、その時に大筋で妥結することがベストだと思う。

記者：TPP交渉について、日本は米国と膠着状況に陥っているが、米国とどう交渉していくかロブ大臣と話したのか。

甘利大臣：日米の首脳が話をして、双方がTPPの早期妥結の重要性を共有したということなので、双方の担当責任者が大統領及び首相の意を受けて、更に交渉を加速させるということになると思う。

記者：7年前から行われている日豪EPA交渉がここに来て加速されているように見えるが、その意味は何か。

甘利大臣：日本側としても、日豪EPAの交渉スタートは第一次安倍内閣の時で、

その時の経産大臣は私であり、安倍内閣としても総理以下、自分たちが始めたことはきちっと自分たちで妥結するという姿勢を持っていると話した。豪州側も政権が代わって日豪 EPA を妥結させることの重要性をこれまでに以上に認識して、モチベーションが上がっているいいタイミングだと思っている。併せて、図らずも日豪 EPA が TPP 交渉の前進にとって良い刺激となるというタイミングもよかったのではないかな。

記者：TPP にとっても良い刺激になるとのことだが、具体的にどのように良い刺激になるのか改めて聞かせてほしい。

甘利大臣：日豪 EPA は TPP の中で日本が持っている対応すべき重要な課題が多く含まれている。先導的に良いレールが敷ければ、それに従って TPP も加速するのではないかなという意味で双方にとって良い刺激になると思っている。

記者：牛肉に関してまだ着地点に届いていないとのことだが、まだかなり開きがあるのか、それとももう少しで届きそうなのか大臣の認識を。

甘利大臣：豪州側に言わせればかなりまだ開きがあるということだが、私から見れば動きだしているという感じがする。

記者：TPP で今後の最大の焦点は 5 品目の中でも肉類ということになるのか。

甘利大臣：5 品目はそれぞれ重要だ。国によって日本に対する思いに色々濃淡があるが、日本にとって 5 品目は等しく重要だと思っている。何とか国会決議、党公約と整合性がとれると認識していただける形で決着をつけたいと思っている。

記者：TPP をまとめる段に当たっては、農水省と経産省それぞれの引き下げ品目について意見が割れることもあると思うが、それをどうまとめていくか。

甘利大臣：私が総責任者なので、私が全てにまたがってまとめることとなる。

記者：日豪 EPA が仮にまとまった場合、関税の扱い等について TPP でも同じ扱いとなるのか。

甘利大臣：TPP は TPP としての決着の姿になると思う。TPP の基本部分は各国が均等待遇なので、そちらにやがて寄って行くこととなる。

(以上)